



# 学校だより

令和6年1月30日  
横浜市立太田小学校  
2月号

## 『だっこ』の宿題

副校長 佐々木 慶子

暦の上では1番寒いと言われる時期を迎え、冬の厳しさを一段と感じます。令和6年能登半島地震からもうすぐ1か月が経ちますが、依然として寒く難しい状況が続いております。災害ボランティアの受け入れが始まり、復旧・復興を支える準備が少しずつ始まりました。被災された皆様に穏やかな日常が戻ることを心よりお祈り申し上げます。

低学年の担任をしていたときに「だっこ」の宿題を週末に出すことがよくありました。「みなさん、金曜日から日曜日の宿題は『だっこ』です。おうちの人に十秒間『だっこ』してもらいましょう。」と伝えると、子どもたちは「『だっこ』なんて格好悪い。」「『だっこ』は赤ちゃんみたい。」と不満そうでした。確かに小学生ぐらいになると、『だっこ』なんて恥ずかしいと子どもも大人も思いがちです。しかし、体と体が触れ合うことで体温が伝わり温かい気持ちになれます。ぎゅっと抱きしめられることで安心感が生まれます。気持ちが通じ合うだけでなく、子どもにとって「自分は愛されている」という自信がつきます。予想通り、月曜日には子どもたちのうれしそうな声を聞くことができました。「私は十秒じゃなくて三十秒も『だっこ』してもらったよ。」「おうちの人が順番で僕のことを『だっこ』してくれた。」「また、『だっこ』のしゅくだいを出して〜。」等々。普段はたとえ手のかからない、いい子であってもまだまだ子どもです。本当はかまってほしいし、自分のことを見てほしいのです。

学校は小さな社会です。大人と同様、子どもも学校でいろいろなことを経験して家に帰っていきます。家では『だっこ』に限らずスキンシップをとることで安心感を得、明日への活力につながっていくのではないのでしょうか。

学校ではスキンシップはとれません。教職員が精一杯、愛情を注がせていただき、保護者と連携をとりながら子どもたちの成長に関わってまいります。これからもどうぞよろしくお願いたします。



太田小学校から臨む富士山